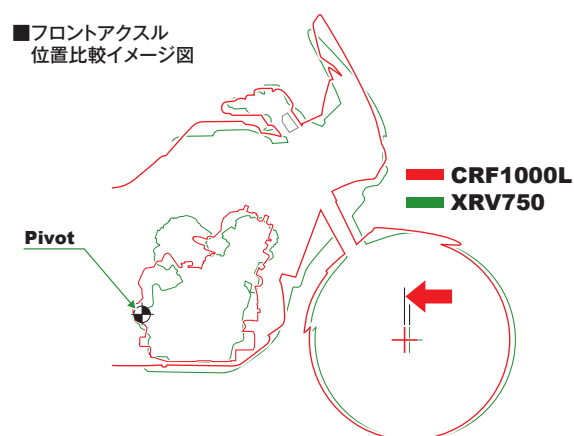


●エンジン搭載レイアウト

「CRF1000L Africa Twin」では、目標とする完成車のディメンションを達成するために、新開発のコンパクトな直列2気筒1000ccエンジンを採用。開発のベンチマークとした「XR750 Africa Twin」に対して、エンジンの前後長の短縮化を実現し、フロントタイヤとフレームピボットの間隔を8mm縮小させました。これにより、フロントタイヤがライダーにより近くなり、オフロード走行時の“フロントタイヤの接地感”という重要な車体特性を向上させ、フロントタイヤの挙動を身近で感じることを可能としました。

さらに、「CRF1000L Africa Twin」で採用した直列2気筒エンジンは、V型エンジンと比較して、リアバンク側のシリンダーが無いいため、シートの上端幅や乗車時の膝周辺の車体幅のスリム化を実現でき、またシート高を標準状態から20mm下げることが可能なシート・アジャスト機構を採用したことで、足つき性の向上を実現しました。



●フレームボディー(1)

フレーム構造は、オフロード路面での適度な“しなやかさ”を生み出すために、ダカール・ラリー参戦モデル「CRF450 RALLY」や前モデルの「XR750 Africa Twin」でも採用したセミダブルクレードル構造としました。

「CRF1000L Africa Twin」のフレームボディーは、“タフなオフロード走行”や“ハイウェイでのタンデム走行”、“荷物を積載した走行”などの様々な走行状況下で必要な剛性を確保。また、荒れたオフロード路面でもタイヤをしっかりと追従させ、動力を余すことなく路面に伝達させる”しなやかさ”を両立させています。

■フレームボディー

